



体操で国体出場をつかみ取った

おだ なぎさ
小田 凧紗 さん



静岡新聞 6月15日掲載

PROFILE

おだ なぎさ (17・上岬区)
清流館高校3年。県大会優勝は同高校で初の快挙。得意種目は跳馬。

県大会を制し国体へ！

平成27年の夏、体操の全国高校総体静岡県予選を準優勝し、インターハイへ出場した小田凧紗さん。体操競技は、跳馬、段違い平行棒、平均台、床運動の4種目で競われる。中学生の頃から東海大会へ出場するなど、活躍が目立っていた凧紗さんは、国体予選である県大会でも優勝という輝かしい成績を残し、念願だった国体出場を果たした。

体操は生活の一部

物心ついた頃には体操をやっていたという凧紗さん。「体操は体操選手にしかできない技ができた時に感じる達成感がたまらない」と魅力を語る。2歳で市内の体操教室へ通い始め、6歳で週3日、小学校高学年になると週6日のハードな練習をこなし、技を磨いてきた。「幼い頃から体操をするのが当たり前だった。体操は生活の一部だった」と笑顔で話す。

しかし、中学2年の時、練習中に足を骨折し、1年間に2度の手術を必要とした大きなけがに見舞われた。体操を

やめようと思ったこともあったけれど、家族の応援やコーチ、仲間を支えられ、体操を続けることができた」と当時を振り返った。

有終の美を飾る

けがから復活した凧紗さんは、高校入学後、全国高校総体などの全国大会に3年連続で出場するほどの技術を身につけた。「国体という大舞台で演技をしたい」という目標を胸に努力を重ね、その結果、高校最後の大会となった国体予選で優勝。悲願の国体出場を決めた。「本番ではミスもなく、悔いのない最高の演技ができた」と思い返した。

凧紗さんの生活の多くを体操が占めていたように「国体が終わりに、急に時間に余裕ができて変な感じ」と笑った。「体操を続けてきて、つらいことや悔しいことがたくさんあったけれど、すべてが良い経験だった。家族や多くの良い指導者のおかげで、体操に打ち込めたことに感謝したい」と16年間の体操人生を振り返った。
今後も彼女の活躍に期待したい。

